

【国と地方が協力して目指す元気な農業】

元気な農業を実現するために、国、都道府県、市町村、農家が協力して、農地や水利施設の整備を進めています。

国と地方と農家の 役割分担

ダムやため池から農地まで水を導く
水利施設は、木のように幹と枝葉から
できています。

大きなダムで水を貯め、川から幹となる水路で水を導き、細い枝に分かれて最後は水田や畑に水を流します。水田に貯めた水を流すときには、細い排水路から、幹となる水路に流れ、最後は排水機場のポンプでくみ上げて川に流します。

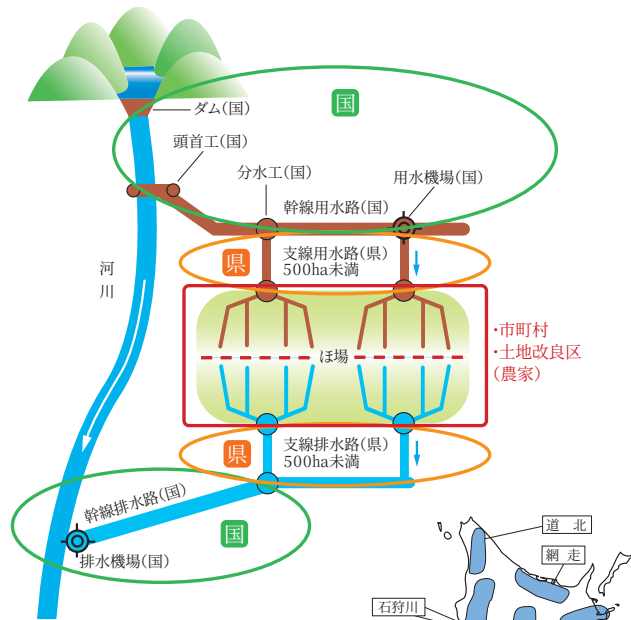
これらの施設は、国と地方自治体、農家が協力、役割分担して作ります。川に作るダム、そこから水を取る頭首工、幹となる水路など大規模な施設は、国が作ります。枝となる水路は、都道府県や市町村や農家がつくる土地改良区(水土里ネット)という団体が担当しています。

大規模な
農業水利施設が
支えるわが国の
食料生産基地

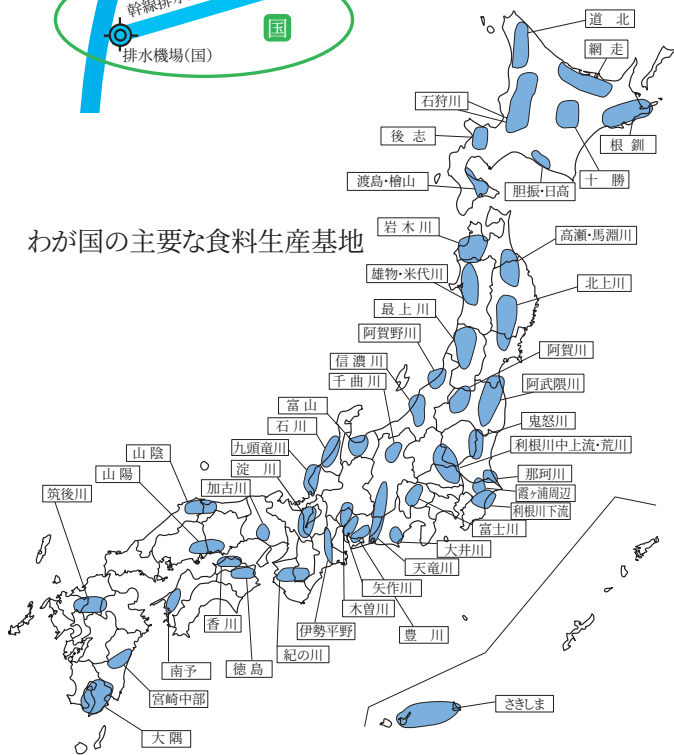
国は、日本の農業の中心となる地域に重点を置いて大規模な水利施設などを整備し、食料生産基地づくりを進めています。

これまで、国と都道府県が協力して施設を整備してきた基幹的な食料生産基地は、全国の約4割、米の生産量の36%、じゃがいも、たまねぎなどの野菜の生産量の4割以上を占めています。

■水利施設整備の役割分担のイメージ



わが国の主要な食料生産基地



事例
報告

未来の農業を目指した 改革のストーリー



事例 02 宮城県大崎地区

宮城県
大崎市ほか

施設の整備をきっかけに地域農業を改革

大崎地区は、ササニシキで有名な米どころです。かつては、水が不足し、水田の水はけも悪く、区画も小さく、農業の効率が低いという悩みを抱えていました。

これらの問題を解決するため、国と都道府県と農家が協力して水利施設を整備しました。国は、ダムと主な水路を建設し、都道府県や土地改良区は、枝となる水路の整備と水田の大区画化を進めました。

これをきっかけとして、20～40haの水田農業を行う大規模な組織ができ、大崎地区の農業の改革が大きく進みました。品質のよい大豆をつることができるようになり、全国でも有数の産地となっています。また、大崎地区は土地が低く、しばしば洪

水の被害を受けていましたが、排水施設の整備によって、農地だけではなく、地域の洪水の被害も減りました。



事例 03 新潟県西蒲原地区

新潟県
新潟市ほかに

胸までつかる水田の苦労を解消

西蒲原地区は、コシヒカリで知られるお米の大産地です。海岸に近い低地にあり、戦前は水田の中に入ると胸までつかような水はけの悪い湿田で、雨のたびに洪水の被害を受け「三年一作」といわれ、農作業にもたいへん苦労していました。

戦後、国を中心として、計画的に施設の整備が進められ、湿田が解消し、大区画化が実現しました。これによって、農業の効率が飛躍的に高くなり、

労働時間は昭和45年の1/4に減っています。また、5ha以上の経営規模の農家が1割近くもあり、全国平均とくらべても大規模な農業経営が行われています。大豆などの生産ができるようになり、「黒崎の茶豆」としてブランド化されています。排水施設や放水路によって、周辺の都市などの洪水の被害も防止されるようになりました。



かつての農作業風景

